

現 職 教 育

1. 研究主題

「主体的・対話的で深い学び」を充実させた授業づくり

2. 主題設定の理由

小学校 副題～自他ともに認め合い対話できる子どもの育成を目指して～

小学校児童は、何事にも落ち着いて一生懸命に取り組むことができる。しかし、自ら課題を見つけ学び、考え判断して行動する力に弱さが見られる。主体的に学び高め合うことができる授業づくりを進めるためには、まず安心して自己を表現することができる集団作りが大切であるとする。互いに認め合い尊重し合い、自分の考えを伝えることができる力を育めるようにしたいと考える。

中学校 副題～できる喜び、わかる楽しさ、活かそう未来で～

意欲的で授業態度や提出物への姿勢なども真面目な生徒が多い。一方、教科に対し苦手意識や負のイメージが強い生徒や、全国学調の結果や生徒アンケートからも「教科が好き・大切である」という回答率が低い生徒がいる。授業力や効果的な手立てによって B 評価に到達させる（できる喜び）。本時の学習内容が別の学習につながり、できる問題が増える（わかる楽しさ）。日常生活や生涯にわたって能動的に学び続けようとする態度をもつ（活かそう未来で）。教科を学習する楽しさや大切さを伝える授業に力を入れ、学ぶことの意義や必要性を実感させたいと考えた。

3. 研究の内容と重点

- ① 義務教育 9 年間を見通した学習内容や学習方法について、その系統性を意識した取組や活動の研究や実践を行う。
- ② 各教科において主体・対話的で深い学びのある授業づくりを重視する。
- ③ 各教科の授業において、ICT の効果的な活用を実践する。
- ④ 特別支援教育を充実し、個に応じたきめ細かな指導を展開する。
- ⑤ 子どもが中心となる児童会・生徒会の取組を進めるとともに、小中共同の取り組みを実施する。
- ⑥ 幼稚園との交流を深める。

4. 具体的な取組

- ① 全職員で、各教科において、主体的・対話的で深い学びのある授業実践を行う。
- ② 教科指導における ICT の活用、ICT の基本的な操作の習得、情報活用能力の育成・評価、情報モラルの教育の充実などを実践していく。
- ③ 研究組織をより一層活性化する。

ア 授業研究部会

小学校と中学校の全教員が A・B 2 つの部会に分かれて所属し、それぞれの校種のよさを生かした授業方法の工夫改善のための研究を継続的に行い、研究授業を実施する。

イ 小中交流部会

各校の教職員の資質や専門性を高め、異校種間での交流を通して、「生きる力」を育成するための研究、実践を行う。

・総合的な学習の時間部会…チャレンジ学習

・特別活動部会 …クリーンパトロール、挨拶運動、母校クリーン作戦

・教育相談部会 …児童・生徒に関する情報交換、小 6 授業参観、夏休み現職教育

- ④ 特別支援学級の子どもの通常学級にいる特別な支援を必要とする子どもについて、個別の支援計画を充実させるとともに、特別支援コーディネーターを中心とした校内支援体制を強化する。
- ⑤ 学校行事や児童会生徒会行事の合同開催などを実施する。
- ⑥ 学校運営協議会を小中合同で実施し、長期的な視野に立った学校評価を受けられるようにする。